

【行革甲子園2014】

取組市町名

大洲市

所属

観光まちづくり課

▽取組事例名

肱川あらし予報事業

▽取組期間

平成25年度開始

▽取組概要

世界的にも珍しい気象現象で、年間十数回しか発生しない「肱川あらし」を予報するため、地域の民間グループの協力を得てWEB配信することにより、「肱川あらし」を広くPRするとともに、地元漁協と連携して「肱川あらし体験ツアー」を実施する。

▽取組みの背景

「肱川あらし」は、世界的にも珍しい気象現象であることから、「1度見てみたい」という問い合わせも多くあり、その発生メカニズムを解明し発生を予測することで地域の観光資源につなげようという試みは、学識者や地元高校などの協力を得て、市として以前から取り組んできたが、潮汐や風向、気圧など複数の条件が重なり合う中ではじめて発生する現象であり、予報の実現にまでは至っていなかった。

▽取組みの狙い・具体的内容

(取組みの狙い)

市と地域住民の連携により、「肱川あらし」の発生を予測し、WEB配信することで、多くの方が関心を持ち、訪れてもらうことで地域の活性化を図る。
また、漁船を活用して肱川あらしの中に入る体験ツアーを実施しており、観光資源としての価値も高まってきていることから、事業効果により地域の振興につなげる。

(具体的内容)

○10月頃から翌年2月頃にかけて、「肱川あらし」の発生予報を行い、地元商店連盟のサイトを使ってYOUTUBEで配信している。今回の取り組みは、地元有志のグループが経験と前日の天気図などから予報を行っているもので、高い確率で的中させている。(期間中毎日更新)
○「肱川あらし体験ツアー」の参加者を募集し、参加希望者には、あらし予報を元に連絡を取り、漁船による「肱川あらし体験ツアー」を実施している。

▽取組みを進めていくなかでの課題・問題点(苦労した点)

予報サイトを毎日更新しているため、労力・時間・経費がかかる。
予報は、前日の夜、気象状況を確認してからのタイミングになるので、ツアー客への連絡が直前になってしまう。
100%の予報は難しく、来ていただいても肱川あらしが出ないことがあり、的中率を上昇させることが課題である。

☆工夫した点

予報の配信には『あらしガール』として、地元中学生に出演してもらい、話題性を高めている。

▽取り組みの効果

地域の観光資源として認識しながらも、発生の予測が難しいため活用に至っていなかった「肱川あらし」を、地元のまちづくりグループが高確率で予報することにより、認知度も高まり、予報を利用した体験ツアーも好評を博している。予報サイトには地元商店連盟、また、体験ツアーには地元漁協も協力していただいております、地域の連携も深まっている。

新規に予報サイトを立ち上げると時間と経費がかかるので、地元商店連盟に協力を仰ぎ、商店連盟のサイトを利用させてもらった。

昨年度の、体験ツアー実施回数は10回で、約70名に参加いただいた。予報サイトも、期間中は平均100件/日程度のアクセスを記録している。

▽住民（職員）の反応・評価

取り組みを始めたところでもあり、また地元住民にとっては慣れ親しんだ自然現象のため、今のところ反応は少ないが、地域活性化のきっかけとなる観光事業として実績を積むことで、さらに多くの住民を巻き込んだ事業への発展を期待している。

☆取り組み効果を踏まえたフォローアップ

今年度は「大洲市がんばるひと応援事業」による補助金を活用し、予報サイトの充実を図る予定にしている。

肱川あらしに関しては、観光課への問い合わせも多いので、サイトの紹介や体験ツアーの紹介を併せて行っている。

肱川あらし展望公園に設置してあるライブカメラを市のHPで紹介し、リアルタイムの映像を提供している。

☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

現在は地元有志のグループが中心となつての活動であるが、予算面での市の支援や、現在も協力いただいている商店連盟・漁協など地域が一体となつた事業としての展開を図りたい。「肱川あらし体験ツアー」では、朝食も提供しており、地元名産のふぐや新鮮な食材のPRにもつなげていくことで、さらに発展させることが可能な事業だと考えている。

また、写真による紹介だけではあらしの流れていく様子が伝わりにくいので、動画での紹介ができるよう市の予算でDVDを作成しPRするとともに、今年度JR四国が企画している観光列車の車内でも映像を流してもらえようお願いしていく。